

●山頂からの眺め<南西方向> ※黒姫山(刈羽)の左手には志賀高原の山々や苗場山が望める



小動物もいろいろ

春を代表する主な昆虫と小動物を紹介!

●チョウの仲間

アゲハはここが縞模様になる

羽がすり切れている (越冬型)



ギフチョウ 4cm

キアゲハ 8cm

ヒオドシチョウ 5cm

クジャクチョウ 5cm

ヤマキマダラヒカゲ 5cm

羽は半透明

内側に青のライン

先が尖る

内側は鮮やかな青色



ウスバシロチョウ 4cm

ルリタテハ 5cm

スジボソヤマキチョウ 4cm

トラフジミ 2cm

ベベニジミ 1.5cm

●甲虫の仲間

●爬虫類

●両生類



黒い線が入る

オオセンコガネ 2cm

イタドリハムシ 0.8cm

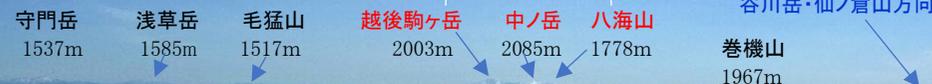
ニホンカナヘビ 18cm

シュレーゲルアオガエル 4cm

ニホンアマガエル 4cm

●山頂からの眺め<東~南東方向>

3つ合わせて「越後三山」



長岡市小国

さがそう! 春の花

★3~5月に見られる



はちこくさんずかん

いろべつ 色別

八石山花図鑑

注意: 花の色別に草→木&開花順に掲載 / ①は開花中の背丈で、サイズは変化します /

3月 = 花の見ごろ月です / 「漢字表記」「科名」は諸説あります /

写真の花の比率は異なります / 開花時期は年によってずれます

2025年版

むらさき いろ 紫 色

スマレをはじめ 紫の花は多い

スマレサイシン / 葶細辛 スマレ科



4月

①15cm・多年草 地上茎がなく、葉と花が立ち上がる。ガク片は細く尖(とが)り、距は丸い(円内矢印)。葉は細長いハート形で先は尖る。白花タイプ(P.7)もある。

アオイスミレ / 葵葶 スマレ科



3月

はしが丸まる

①10cm・多年草 春一番に咲き出す小型のスマレ。全体に毛深い。花弁(はなびら)の縁は波打つ。ガク片の先が丸いのが特徴(円内)。葉は円に近いハート形。

ナガハシスマレ / 長嘴葶 スマレ科



4月

距が長い

①15cm・多年草 距が長いのが特徴で、別名テングスマレ(天狗葶)。花弁が押しつぶされたように平べったい感じで咲く。葉はハート形で、先が尖る。

※八石山は新潟県柏崎市・長岡市にまたがる標高 518mの山。多雪地帯に位置するため多彩な花が咲き誇る

オオタチツボスミレ/大立壺堇 スミレ科



①20cm・多年草
日本海側の多雪地に咲く大きめのスミレ。花弁は紫色だが距が白いのが特徴。葉はハート形。花が開かない閉鎖花(へいさか・円内)は中で受粉する。

4月

タチツボスミレ/立壺堇 スミレ科



①15cm・多年草
地上茎から花や茎をのぼす地上茎があるスミレの代表格。花弁と距は薄紫色。全国的に分布する。花弁が白いオトメスミレもある(P.7)。

4月

マキノスミレ/牧野堇 スミレ科



①10cm・多年草
牧野富太郎博士と関係深いスミレとされる。地上茎のないスミレで、東日本に多い。別名ホノバスマシレで、葉が細長く先が尖る。葉裏は紫色がかかる。

4月

スミレ/堇 スミレ科



①10cm・多年草
正式種名が「スミレ」で、街中でも見かける紫色の濃いスミレ。地上茎はない。葉が細長い靴べら形で、葉柄に翼(よく)がある。八石山では少ない。

5月

翼がある

ショウジョウバカマ/猩々袴 シュロソウ科



①20cm・多年草
早春、ロゼット状の葉から茎をのぼして花を咲かせる。花は小さな花の集まりで、長いメシベとオシベが目立つ。花色は個体差が大きい。

3月

オオミスミソウ/大三角草 キンポウゲ科



①15cm・多年草
俗名「雪割草」。ミスミソウの変種で日本海側に多い。花弁に見えるのはガク(花弁はない)。花色は赤紫や青、ピンク、白もあり多彩。葉の先が尖る。

3-4月

スハマソウ/洲浜草 キンポウゲ科



①15cm・多年草
こちらも「雪割草」として知られる太平洋側に多い種。色は多彩。葉先は丸く、尖らないとされるが移植等で交配が進み、種の区別は難しい。

3-4月

キクザキイチゲ/菊咲一華 キンポウゲ科



①20cm・多年草
葉と花の形がキク(菊)に似る。花弁に見えるのはガクが変化したもので花弁はない。薄紫色の花は日本海側に多く、白色もある(P.7)。

4月

ヒメアオキ/姫青木 ガリア科



★常緑低木
太平洋岸に分布するアオキの仲間。日本海側に多い。小型なので名前に「姫」がつく。「青木」は「葉が年中青い」の意味。雌雄異株。円内は雌花。

4月

雄花

雄株

アケビ/木通 アケビ科



★落葉つる性木本
小葉が5枚出るのが特徴。雌雄同株。花は垂れ下がってつく。黒っぽいのが雌花。雄花は色が薄め(円内)。秋にできる実は甘く、食用になる。

4月

小葉が5枚出る

雌花

雄花

ミツバアケビ/三葉木通 アケビ科



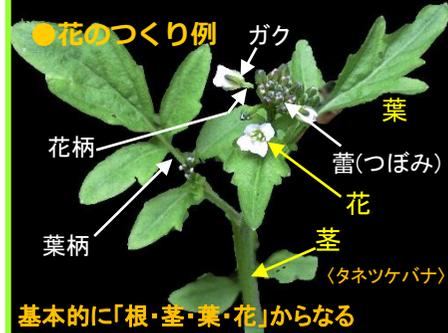
★落葉つる性木本
小葉が3枚なので区別しやすい。花は雌花・雄花共に色が濃い。秋に実がなるが、仲間のゴヨウアケビ(五葉木通)は交雑種で実がならない。

4月

小葉が3枚出る

雄花

雌花



基本的な「根・茎・葉・花」からなる

花=花弁(はなびら)の中にメシベとオシベがある。
ガク=花弁の外側にあり、個々のガクをガク片(へん)という。
花柄(かへい)=茎(くき)と花をつなぐ柄(え)の部分。
葉柄(ようへい)=茎と葉をつなぐ柄の部分。
距(きよ)=花弁やガクの一部が変化した突起部分。スミレ類やトキワイカリソウ、エンゴサク類、ムラサキケマン等にある。

スプリング・エフェメラル=「春の妖精(ようせい)」とも呼ばれ、春に花を咲かせ夏には枯れて次の春まで地下で過ごす種のこと。八石山ではカタクリ、スミレ類、エンゴサク類、アズマイチゲ、キクザキイチゲ、ニンソウ等が見られる。

実を発見!

八石山で春によく見かける実を紹介!



ツルアリドオシ/蔓蟻通
アカネ科・常緑多年草
茎は地上をはい、葉は対生。赤い実には点状の跡が残る。



ヤブコウジ/藪柑子
サクラソウ科 ★常緑小低木
冬から春に見かける赤い実。別名 **ジュウリョウ**(十両)。



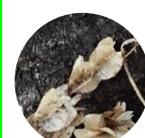
ヒメアオキ/姫青木
ガリア科 ★常緑低木
秋から実をつけ、緑の実には春には赤くなる(P.19 左上も参照)。



ジャルヒゲ/蛇髭
キジカクシ科・多年草
別名 **リュウヒゲ**。宝石のようなつやのある青色の実をつける。



ヤマノイモ/山の芋
ヤマノイモ科・つる性多年草
実は3枚の薄い翼があり、円形に近い。下向きにつくのが特徴。



オドコロ/鬼野老
ヤマノイモ科・つる性多年草
実は楕円形で3枚の翼がある。ヤマノイモに似るが、実は上向き。

コナラ/小櫛 ブナ科

木

5月



★落葉高木
春に黄緑色の花を垂らす。同時に
出る若葉は細めの卵形で、縁に
細かく鋭い刻みが入る。秋にでき
る実は、**ドングリ**と呼ばれる。

サワシバ/沢柴 カバノキ科

木

5月



★落葉高木
開花は新芽が出るのと同時で、尾
のような花穂(かすい)をぶら下げ
る。やがて写真のように小さな葉
が重なる若い果穂(かすい)とな
り、秋に熟す。

ツクバネ/衝羽根 ビャクダン科

木

5月



★落葉低木
枝先の小さな花は雄花。雄雌異株。
秋に雌花にできる実は羽根つきの羽
根に似る(円内)。水や栄養の一部を
他の植物からもらう半寄生植物。

エンレイソウ/延齡草 シュロソウ科

4月



①30cm・多年草
大型の円形に見える葉は、3枚の葉が
輪生したもの。その中央から花柄がの
びて開花。でも黒いのは花弁ではなく
ガクになる。花弁はない。

ウラシマソウ/浦島草 サトイモ科

4月



①40cm・多年草
黒っぽい仏炎苞(ぶつえんぼう)の中
から長いヒゲを出す。そのヒゲを浦
島太郎の釣糸に見立てこの名が
ついた。小葉は渦巻き状に出る(円
内)。

コシノカンアオイ/越寒葵 ウマノスズクサ科

4月



①10cm・多年草
日本海側の多雪地に多い。花に見
えるのはガク(写真矢印)で、花弁
はない。ガクは筒形で先が開く。
ギフチョウが葉裏に産卵(円内)、
幼虫が葉を食べる。

タヌキラン/狸蘭 カヤツリグサ科

4月



①60cm・多年草
名前にランとつくがスゲの仲間。
湿った場所を好む。タヌキの尾に
似た小穂(しょうすい)を長い茎に
数個垂らす。上が雄小穂で下が雌
小穂。

シラネアオイ/白根葵 キンボウゲ科

4月



①50cm・多年草
高山植物として人気があり、日本
海側の多雪地に多い。大きな花に
見えるのはガクで、花弁はない。葉
は大きく裂ける。花のすぐ下の葉は
丸い形。

ヤマエンゴサク/山延胡索 ケシ科

4月



①15cm・多年草
筒形の花を横向きに咲かす。花色は
赤紫～青紫。花の基部に残る苞葉
(ほうよう)は小判形で先に切れ込み
がある(円内)。葉形は変化に富む。

エゾエンゴサク/蝦夷延胡索 ケシ科

4月



①15cm・多年草
こちらは日本海側に多い種。花色は
青みが強い。苞葉には切れ込みが
ない(円内)。延胡索の名前の由来
は、中国の漢方薬名によるとされる。

ミチノクエンゴサク/陸奥延胡索 ケシ科

4月



①15cm・多年草
全体に小型でほっそりしている感
じ。花色は淡い青紫色。苞葉には、
切れ込みがあるのとないのと両方
ある(点線円)。日本海側に多い種。

ムラサキケマン/紫華鬘 ケシ科

4月



①30cm・一年草
茎先に濃い紫色の花が密集して咲く。
花は細長い筒形で花弁は4枚。外側の
2枚は大きく、そのうちの1枚は後
ろにのびて距になる(円内)。葉は細
かく裂ける。

カキドオシ/垣通 シソ科

4月



①20cm・多年草
茎の節から根が出て、横にはうよ
うにのびる。茎は角張る。花は唇を
突き出したような唇形(しんけい)で、
中に細毛が密生する。葉は丸みがある。

ムラサキサギゴケ/紫鷲苔 サギゴケ科

4月



①15cm・多年草
花は舌を出したような形。大きな
花弁の下唇(かしん)には黄点が並ぶ。
花弁の上唇の先は裂け、ウサギの
耳のよう。湿った場所を好む。

トキワハゼ/常盤爆 サギゴケ科

4月



①10cm・多年草
花は薄紫色で、花期は春～秋と長
い。ムラサキサギゴケに似るが、こ
ちらは全体に小型で、葉はスプーン
形。下唇の黄点は小さく、数も少
ない。

ちやいろ くる
茶色・黒

地味な色だが、とても
ユニークな花が多い

キラソウ/金瘡小草 シソ科



4月

①10cm・多年草
全体に毛深い。唇形の花の中にオシベが4本あり、うち2本が長い。葉が地面をほうように広がる様子から別名ジゴクノカマノフタ(地獄釜蓋)。

ガクウラジロヨウラク/萼裏白瓔珞 ツツジ科 木



5月

長いガク

★落葉低木
花は壺形で紅紫色。シャンデリアのように咲く。ガクが長いのが特徴で日本海側に多い。似たウラジロヨウラク(裏白瓔珞)はガクが短い。

カンスゲ/寒菅 カヤツリグサ科



4月

②20cm・多年草
冬でも緑色の葉を出す。茎の先に黄緑色の小穂(しょうすい)を出す。ひものようなものは葎(やく)で、花粉を散らす。葉幅は5~10mm。

ツクバネソウ/衝羽根草 シュロソウ科



5月

①30cm・多年草
茎から4枚の大きな葉を出し(輪生)、茎の先に花を1個つける。それが糸のような、針のような形で、およそ花には見えない形をしている。

フデリンドウ/筆竜胆 リンドウ科



5月

①10cm・一年草
花が青く透き通るようなリンドウで、春に咲く。ラップ形の花弁の先は5つに裂ける。副片は5枚ある。花は日が当たると開き、曇ると閉じる。

あか いろ
赤・ピンク色

春をはやかに彩る
一番人気はカタクリ!

ヒメシラスゲ/姫白菅 カヤツリグサ科



5月

雄小穂

雌小穂

②20cm・多年草
スゲの仲間でも小型。茎の先端に細い雄小穂が1本出て、それに接するように雌小穂が複数個つく。葉幅は5~8mm。湿った場所を好む。

オニグルミ/鬼胡桃 クルミ科 木



4月

★落葉高木
川沿いに多くみられる。この木の実がクルミになる。垂れている緑色が雄花。雌花は赤色で小さく、上向きに咲く(円内)。

シャガ/射干 アヤメ科



5月

④40cm・多年草
アヤメ(文目)より小型で、春から咲き出す。花は薄紫色で、枝分かれした先に多数の花が咲く。似たヒメシャガ(姫射干)は紫色が濃く、より小型。

カタクリ/片栗 ユリ科



3-4月

①20cm・多年草
「春の妖精」として人気の花。片栗粉は昔この根から作った。八石山では群生も多く、花が白いシロバナカタクリ(白花片栗)も見られる。

タチシオデ/立牛尾菜 サルトリイバラ科



5月

花

茎が立ち上がる

①1m・多年草
つる植物だが、はじめは茎が直立し、巻きひげをのばして他にからみつく。シオデとの違いは花の下の片が反り返らないこと。山菜の一つ。

ヤマグワ/山桑 クワ科 木



4月

★落葉低木
葉はカイコのえさとして有名。初夏に熟す実は食用になる。主に雌雄異株。よく似たマグワ(真桑)は中国原産で、養蚕の普及と共に全国に広がった。

フジ/藤 マメ科 木



5月

★つる性落葉木本
枝先に紫色の小さな花をたわわにぶら下げる。別名ノダフジ(野田藤)。つるは長く太くなって木に巻きつく。日本固有種。日当たりを好む。

オオイワカガミ/大岩鏡 イワウメ科



4月

①15cm・多年草
日本海側の多雪地に多い種で、葉が大きめ。花は筒状で先が細かく裂ける。葉は円形で、鏡のような光沢がある。白花タイプ(円内)も増えてきた。

ウワバミソウ/蟒蛇草 イラクサ科



5月

雄花

雌花

広い

葉が左右非対称

④40cm・多年草
雌雄異株で、春に花柄のある雄花が先に咲く(写真)。その後に雌花が咲く。葉は左右対称ではない。春の若葉が山菜のミズ。湿った場所を好む。

ハナイカダ/花筏 ハナイカダ科 木



5月

★落葉低木
花が葉の中央に出る変わりもの。葉をいかだに見立てこの名がついた。雌雄異株。花は雄株が複数個、雌株は1個だけ花が咲く。夏に黒い実になる。

アブラチャン/油漑青 クスノキ科 **木**

4月

★**落葉低木**
早春、葉が出る前に小さな半透明の花が集まるように咲く。よく見ると花柄がある。木は油分が多く、「チャン」とは中国語で「アスファルト」の意味。



みどりいろ
緑色

緑の花は意外にも多い
でも見つけるのは大変

ウリハダカエデ/瓜膚楓 ムクロジ科 **木**

4月

★**落葉高木**
黄色い小さなラッパ形の花を十数個、らせん状に連なるように垂らす。花弁とガクは共に5枚。秋にできる実はプロペラ付きの翼果(よくか)となる。

葉の形



シュンラン/春蘭 ラン科

4月

①15cm・多年草
春を代表する野生ランで人気が高い。緑色の3枚のガク片が目立つ。花弁は3枚で下の唇弁(しんべん)はクルッと丸まる。乾いた場所を好む。

ガク片
唇弁



イタヤカエデ/板屋楓 ムクロジ科 **木**

4月

★**落葉高木**
新芽の先に黄色の小さな花を房状につける。その後葉が出る。葉は縁にギザギザがなく、切れ込みも浅め。樹液はメープルシロップとなる。

葉の形



ヒロハテンナンショウ/広葉天南星 サトイモ科

4月

①40cm・多年草
緑色の筒状のものは仏炎苞(ぶつえんほう)。中にある緑色の肉穂花序(にくすいかじよ)は秋に赤く熟す。葉は幅広の小葉が5枚出る。日陰を好む。

小葉は5枚
仏炎苞



サンショウ/山椒 ミカン科 **木**

5月

★**落葉低木**
木には芳香がある。実は辛味があり、芽や葉とともに昔から香辛料として利用されてきた。雌雄別株で、写真は雄花。枝にはトゲがある。

雄株



コシノチャルメルソウ/越哨唎草 ユキバナ科

4月

①40cm・多年草
新潟・富山県で見られる日本固有種。湿った場所を好み、花弁は進化してひも状になる(円内)。名の由来は実が楽器のチャルメラに似ることから。



ヒメオドリコソウ/姫踊子草 シソ科

4月

①15cm・一年草
ヨーロッパ原産の外来種で、花は傘をかぶった踊り子のよう。在来種のオドリコソウ(踊子草)は数を減らしているのに対し、こちらは分布を広げている。



トウバナ/塔花 シソ科

5月

①20cm・多年草
茎の先に唇形(しんけい)の小さな花を段々につける。それが塔に見えることからこの名がついた。花は薄いピンク色で、湿った場所を好む。



ノアザミ/野薊 キク科

5月

①70cm・多年草
アザミは夏の花だが、こちらは春から咲き出す。花は上向きに咲く。葉は深く切れ込んでいて、縁に硬いトゲがある。日当たりのよい場所を好む。



サイハイラン/采配蘭 ラン科

5-6月

①30cm・多年草
山地に咲くラン。紫がかったピンク色の花を多くぶら下げる。これが武将の采配(さいはい)に似ることからこの名がついた。



ユキツバキ/雪椿 ツバキ科 **木**

4月

★**常緑低木**
日本海側に多い種で、オシベ全体が黄色なのが特徴。似たヤブツバキ(藪椿)は、オシベ全体は白で先だけが黄色なので区別できる。

全体が黄色いオシベ



ヤマザクラ/山桜 バラ科 **木**

4月

★**落葉高木**
日本在来種のサクラの一つだが、交配種も多い。花と葉が同時に出て、若葉は最初は赤味がかかる。似たカスミザクラは花が白(P.11)。



オクチョウジザクラ/奥丁字桜 バラ科 **木**

4月

★**落葉小高木**
東北～北陸の日本海側に分布するサクラ。花柄が長く、「丁字」形に花がつく。花弁は小さく、重ならない。葉の縁のギザギザは丸味を帯びる。

長い花柄



ヤマモミジ/山紅葉 ムクロジ科 **木**

4月

★**常緑高木**
カエデの仲間日本で日本海側の多雪地に多い。小さな赤みがかかった花をたくさんつける。ガクは濃い紅色。葉は細かく裂け、先が尖る(円内)。

葉の形



ユズリハ/譲葉 ユズリハ科 木

4月 若葉 雄花 前年の葉

★常緑高木
春に前年の葉が、若葉に席を譲(ゆず)るように落ちることから、この名がつけられたとされる。雌雄異株で、写真の赤い塊が雄花(花弁はない)。

〈雄株〉

ナワシロイチゴ/苗代莓 パラ科 木

5-6月

直立した花弁
ガク

★落葉低木
イチゴの名がつくが草ではなく木。5枚のピンクの花弁が直立し、オシベが顔を出す様子は蕾みたい。トゲのある茎はつる状にのびる。

オニノゲシ/鬼野芥子 キク科

5月

◎60cm・一年草
葉は光沢があり、縁はトゲのようで触ると痛い。茎は太めで筋が入る。ヨーロッパ原産の外來種で、似たノゲシより全体的に荒々しい感じ。

コナスビ/小茄子 サクラソウ科

5月

◎10cm・一年草
花は5mmほどで小さく、葉のつけ根に咲く。花弁は1枚で先が5つに裂ける。葉は対生で細かな毛がある。地面をほうように広がる。

ユキグニミツバツツジ/雪国三葉躑躅 ツツジ科 木

4月

★落葉低木
日本海側に多い種で、ツツジの間では最初に咲き出す。花は鮮やかなピンク色。オシベは10本。葉は名前通り、枝先に3枚ずつつく。

しろ いろ
白 色
一番種類の多い花色
花の形も色々ある

オニタビラコ/鬼田平子 キク科

5月

◎40cm・越年草
茎の先に、1cmほどのタンポポに似た小花を多数つける。茎は紫色を帯び、茎の上部は葉が少なく、あっても小さい。日当たりを好む。

マルバマンサク/丸葉満作 マンサク科 木

3月

★落葉低木
日本海側の多雪地に多い種で、雪解けと同時に花を咲かす。花弁は黄色いひも状で、4枚ある。ガクは赤茶色。葉は花の後に生じる。

ヤマツツジ/山躑躅 ツツジ科 木

5月

★落葉低木
花は赤や朱赤(しゅあか)色。日本各地で見られるツツジ。ろうと形の花先は5つに分かれ、オシベは5本。まん中の長くのびた1本がメシベ。

オウレン/黄連 キンポウゲ科

3月

◎15cm・多年草
日本固有種で春一番に咲き出す。花柄をのびし数個の小花をつけるが、白く長いのはガクで花弁は小さい。実は車輪状につく(円内)。

コウゾリナ/剃刀菜 キク科

5月

◎60cm・一年草
花はタンポポ似で小花(円内)。特徴は茎や葉、長い総苞(そうほう)にトゲのような剛い毛があること。葉は細長い。「コウゾリ」とは「カミソリ」の意味。

総苞の剛毛

キブシ/木五倍子 キブシ科 木

4月

★落葉低木
葉が出る前に粒状の小さな花が、連なって垂れ下がる。夏以降にできる実は、タンニンが多く含み、昔はお歯黒の材料として利用された。

タニウツギ/谷空木 スイカズラ科 木

5月

★落葉低木
鮮やかなピンク色の花が山を華やかに彩る。花はろうと形で、花弁の先は5つに分かれる。日本海側の日当たりのよい場所で見られる。

コシノコバイモ/越小貝母 ユリ科

3-4月

◎15cm・多年草
茎先に角張った白い花を1個垂らす。葉は5枚だけで、細長い。雪解けと同時に咲き出す。日本固有種。北陸以北の日本海側に分布。

キンラン/金蘭 ラン科

5月

◎30cm・多年草
黄色い野生ラン。花弁とガク片は各3枚で半開する。花弁は2枚の側弁と1枚の唇弁からなる。明るい山林を好む。似たギンラン(銀蘭)は白花。

クロモジ/黒文字 クスノキ科 木

4月

★落葉低木
葉が出ると同時に黄色の半透明の花が枝先に垂れる。葉は芳香と殺菌作用があり、枝は昔から高級つまようじ材として利用されてきた。

ミツバツチグリ/三葉土栗 バラ科



④20cm・多年草
茎先に多くの花をつける。花弁間のすき間はせまい。名前通り小葉が3枚で、似たキジムシロ(雉筵)は5枚以上。楕円形の小葉はまん中が大きい。

エゾタンポポ/蝦夷蒲公英 キク科



④20cm・多年草
在来種のタンポポで中部以北に多い。花は多くの花の集合体。花弁を包む総苞片(そうほうへん)は反り返らない(円内矢印)。

ヘビイチゴ/蛇苺 バラ科



④20cm・多年草
イチゴに似てガクが大きく、下に反り返る。小葉は3枚で、先は丸みを帯びるのでミツバツチグリと区別できる。花弁間は広く空く。赤い実となる。

セイヨウタンポポ/西洋蒲公英 キク科



④20cm・多年草
総苞片が反り返る(円内矢印)ヨーロッパ原産の外来種で、全国に分布域を広げている。八石山では人が集まる駐車場や山頂等で見られる。

キツネノボタン/狐牡丹 キンポウゲ科



④40cm・多年草
花は1cmと小さく、光沢のある5枚の花弁は細長い。ガクは反り返る(上の円)。実は金平糖の形で、先がかぎ状に曲がる(下の円)。湿地を好む。

ハナニガナ/花苦菜 キク科



④50cm・多年草
ニガナの変種で、花弁が7~10枚ある(ニガナは約5枚)。茎の先で枝分かれして咲く。葉柄のない茎葉は細長く、茎を抱く(点線円)。

ウマノアシガタ/馬足形 キンポウゲ科



④50cm・多年草
光沢のある5枚の花弁が目立つ。花の大きさは2cmほど。ガクは反りかえらない。実はキツネノボタンに似るが先が曲がらずに尖る。日当たりを好む。

ジシバリ/地縛 キク科



④15cm・多年草
一見、タンポポの小型版のよう。卵円形の葉は葉柄があり、葉の縁にギザギザはない。地面をほうように広がる。似たオオジシバリの葉は細長い。

アズマイチゲ/東一華 キンポウゲ科



④20cm・多年草
早春に咲き出す。花弁はなく、白のはガク。花の中央は青みがかかる。葉は小判形で、切れ込みが入るのが特徴。「一華」の意味は「一輪の花」。

シロバナスマレサイシン/白花菫細辛 スミレ科



④15cm・多年草
スマレサイシン(P.1)の白花タイプ。日本海側に多いとされる。唇弁(しんべん)には紫色の筋が入る。八石山では春早めの時期に開花。

キクザキイチゲ/菊咲一華 キンポウゲ科



④20cm・多年草
別名キクザキイチリンソウ(菊咲一輪草)。花色は紫色もある(P.2)。葉は深く切れ込み、縁には刻みが入る。スプリング・エフェメラル(P.19)の一つ。

シラユキナガハシスミレ/白雪長嘴菫 スミレ科



④15cm・多年草
ナガハシスミレ(P.1)の白花タイプで、八石山で見たのは花弁が白く、距が紫色のもの。とても希少なので、みんなで見守っていききたい。

トキワイカリソウ/常盤碓草 メギ科



④40cm・多年草
花は船のイカリに似た複雑な形。日本海側に多い種で花が白のが特徴。花弁は4枚で、先が細くのびる部分は距になる。葉は細長いハート形。

オトメスミレ/乙女菫 スミレ科



④15cm・多年草
タチツボスミレ(P.2)の白花タイプ。八石山のもの花弁が白で距は紫色を帯びる(円内)。牧野富太郎博士が箱根の乙女峠で発見したスミレ。

サンカヨウ/山荷葉 メギ科



④40cm・多年草
花弁は6枚で、水に濡れると透けて見える。葉は大小2枚がセットで、花は小さい葉の上に出る。葉は真中で深く切れ込む。縁に刻みあり。

ニョイスミレ/如意菫 スミレ科



④15cm・多年草
小型の白いスミレ。唇弁がくぼんでいて壺に見える。別名ツボスミレ(壺菫)。花の紫の筋は蜜標(みつひょう)で、虫を蜜まで誘う目印。

ミズバショウ/水芭蕉 サトイモ科



4月 ④50cm・多年草
水辺に分布。白い部分
は仏炎苞(ぶつえんぽう)で花ではない。花はその中央にある緑の棒状部分で、極小の花の集合体になる。葉は後に大きく育つ。

ミヤマカタバミ/深山片喰 カタバミ科



4月 ④15cm・多年草
街でよく見かける黄色いカタバミ(片喰)の山地タイプ。花は白く、3cmほど。葉はハート形で3枚がくっついていて。朝や雨の日は花を閉じる。

ヤマボウシ/山法師 ミズキ科

木



5月 ★落葉高木
白い花は総苞片(そうほうへん)で、中央にある緑の塊が花弁の集まったもの。秋にはこれが集合果となり、赤い球状の実となる(円内)。

ホクリクネコノメ/北陸猫目 ユキノシタ科



4月 ④10cm・多年草
花のような黄色部分は葉で、中央の粒状のものが花。黒点はオシベの先端。茎は直立する。葉は対生。分布は北陸の多雪地で、湿地を好む。

ニリンソウ/二輪草 キンポウゲ科



4月 ④30cm・多年草
花を2輪つけるが(3輪もある)、開花時期をずらすように咲く。花弁のように見えるのはガク。通常5枚だが6枚以上も見られる。湿地を好む。

アマドコロ/甘野老 キジカクシ科



4月 ④60cm・多年草
1~3個の花をいくつも連ねる。花弁は筒状で分離しない。花弁の先は緑色で浅く開く。茎は角張っているの、丸いオオナルコユリと区別できる。

ナナカマド/七竈 バラ科

木



5月 ★落葉高木
材質が堅く燃えにくい木として有名。小さな白い花をびっしりつける。秋には実も葉も赤くなる。下八石山頂でも見られる。

ヤマネコノメソウ/山猫目草 ユキノシタ科



4月 ④10cm・多年草
花は小さな黄緑色で花弁はない。葉は互生し、ホクリクネコノメと区別できる。名は実の裂けた形が猫の目に似るから(円内)。湿地を好む。

チゴユリ/稚児百合 イヌサフラン科



4月 ④20cm・多年草
6枚の花弁を持つ小さな花を、茎の先に1~2個つける。花はうなだれるように下を向く。イメージはお稚児(ちご)さんのよう。日陰を好む。

ミヤマナルコユリ/深山鳴子百合 キジカクシ科



5月 ④30cm・多年草
花は筒状で、2個ずつ左右に分かれて垂れ、連なる。茎は茶色で細く、一直線ではなく、葉のつけ根で角度がつく。茎は多くの筋が入るが全体的には丸い。

きいろ
黄色

代表はタンポポの仲間
うまく区別できるかな？

フキノトウ/蕨の薹 キク科



4月 ④20cm・多年草
フキノトウの正式種名はフキ(蕨)で、フキノトウはフキの若い花芽。山菜として有名。雌雄異株で雄株の花は黄色、雌株は白花(円内)になる。

ハウチャクソウ/宝鐸草 イヌサフラン科



4月 ④40cm・多年草
1~3個の花を垂らす。花弁は4枚で、アマドコロのように筒状ではなく1枚1枚が分離する。花弁の先端は緑色がかかる。日陰を好む。

オオナルコユリ/大鳴子百合 キジカクシ科



5月 ④80cm・多年草
最大1m以上になる大型の種。花は筒状で、2~5個垂れて連なり総数は40を超えるものもある。茎は太くて丸い。大きいので上部がしなる。

オオバキスミレ/大葉黄堇 スミレ科



3-4月 ④10cm・多年草
春先から長い期間咲く黄色のスミレ。日本海側の多雪地に多く見られ、葉が大きめなのが特徴。5枚ある花弁の下の唇弁(しんべん)が小さい。

アズマシロカネソウ/東白銀草 キンポウゲ科



4月 ④30cm・多年草
花は5枚あるガクのうち黄色が4枚で、紫色が1枚。ベレー帽をかぶっているように見える。中にある小さなオレンジが花弁。湿地を好む。

ホオノキ/朴木 モクレン科 木

5月

★**落葉高木**
花は大きく直径20cm以上もあり、日本一と言われている。葉も30cm以上になる。葉の縁はなめらかで、昔から料理に使われてきた。



コマユミ/小真弓 ニシキギ科 木

5月

★**落葉低木**
緑がかった白い小さな花が葉のつけ根から出る。花弁は4枚で、黄色い4つの点はオシベ(円内)。写真の矢印は花に来たアリ。花の小ささがわかる。



タニギキョウ/谷桔梗 キキョウ科

4月

◎10cm・多年草
花は1cmほどで小さい。5枚の花弁の中央に筋が縦に入るのが特徴。花弁には切れ込みが入らない。葉は円形に近い。湿った場所を好む。



ノミノフスマ/蚤倉 ナデシコ科

4月

◎15cm・一年草
「ふすま」は「布団」のことで、葉がノミの布団になる例えから名前がついた。花も小さく、5枚の花弁は大きく裂けて10枚に見える(円内)。



トリガタハンショウツル/鳥形半鐘蔓 キンポウゲ科 木

5月

★**つる性低木**
のびたつるから、5cmほどの鐘形の花を垂らす。花色は白〜クリーム色。花弁に見えるのはガクで4枚あり、先が少し反る。花弁はない。



ヒメカイイチゴ/姫梶苺 バラ科 木

5月

★**落葉低木**
西日本に多いカジイチゴ(梶苺)よりも小型で、ニガイイチゴ(苦苺)とカジイチゴとの雑種とされる。花弁は5枚。枝にはトゲがある。日当たりのよい荒地を好む。



ミドリハコベ/緑繁縷 ナデシコ科

4月

◎15cm・多年草
ハコベの代表格で春の七草のハコベとされる。花は7mmと小さく、ガクの方が大きい。全体が緑色で、横にはうよりも立ち上がる。日当たりを好む。



シロバナニシキゴロモ/白花錦衣 シソ科

4月

◎15cm・多年草
青紫色の花を咲かせるニシキゴロモ(錦衣)の白花タイプで、細かい毛が多い。茎は寝ないで立つ。日当たりを好む。日本海側に多い。



オオニワトコ/大接骨木 レンブクノ科 木

5月

★**落葉低木**
小さな白い花が密集する。蕾のときは黒色(円内)。名前は枝を煮詰めて接骨治療に使用したため。別名ミヤマニワトコ(深山接骨木)。



ヒメモチ/姫臍 モチノキ科 木

5月

★**常緑低木**
日本海側の多雪地に分布。雌雄異株。花は小さく、花弁は4枚。雄花にはオシベが4本ある。雌花は秋に赤い実をつける。年々開花時期が早まっている。



サワハコベ/沢繁縷 ナデシコ科

4月

◎15cm・多年草
花は1cmほどで小さい。よく見ると花弁の先端に切れ込みが入り、ハート形になっている。名前の通り沢ぞいや湿った場所を好む。



ヒトリシズカ/一人静 センリョウ科

4月

◎20cm・多年草
十字型についた4枚の葉は輪生。中央から花穂(かすい)をのぼして花を咲かせるが、白糸に見えるものはオシベで、花弁とガクはない(円内)。



エゾツリバナ/蝦夷吊花 ニシキギ科 木

5月

★**落葉低木**
名前の通り、いくつもの花がつり下がっている。花弁は5枚(4枚もある)。日本海側に多い種で、仲間のツリバナやオオツリバナとの区別は難しい。



ツクバネウツギ/衝羽根空木 スイズラ科 木

5月

★**落葉低木**
ろうと形の花の内側に黄色い模様がある。ガク片が5枚あり(矢印)、これが羽根つきの羽根のように見えるので、ツクバネの名がついた。



ミヤマハコベ/深山繁縷 ナデシコ科

4月

◎15cm・多年草
サワハコベに似るが、違いは花弁の切れ込みの深さ。深く切れ込み花弁が10枚あるように見える。葉は広い卵形で先が尖る。湿地を好む。



フタリシズカ/二人静 センリョウ科

5月

◎25cm・多年草
こちらは中央から2本の花穂が出る。オシベは糸状ではなく、丸まってメシベを包み込むので白玉が連なるように見える。花期は春遅め。



タネツケバナ/種漬花 アブラナ科

4月



①30cm・一年草
小さな花が茎先にたくさん咲く。花弁は4枚。茎は紫色を帯びるものもある。湿った場所を好む。似たオオバタネツケバナ(大葉種漬花)は無毛。

センボンヤリ/千本槍 キク科

5月



①15cm・多年草
花は2重構造になっている(外側は細長い舌状花、内側は筒状花)。筒状花は秋にも出るが閉じたままの閉鎖花で、その形がヤリに似る(円内)。

ヤブニンジン/藪人参 セリ科

4月



①50cm・多年草
細長い茎をのびして、先に小さな花をまばらにつける。葉と茎には毛が密集する。葉はニンジン(人参)のように細かい刻みが入る。日陰を好む。

ユキザサ/雪笹 キジカクシ科

5月



①25cm・多年草
のびた花柄の先に、雪の結晶のような小さな花を多く咲かせる(円内)。花弁は6枚。葉は笹の葉に似て、長楕円形で先が尖る。日陰を好む。

シヤク/杓 セリ科

5月



①1m・多年草
こちらもセリ科の花で、長い茎の先に小さな花を多数つける。花弁は5枚だが、よく見ると大きさがバラバラで同じでないのが特徴(円内)。

ヤマホタルブクロ/山蛍袋 キキョウ科

5-6月



①40cm・多年草
花は白く、日本海側に多い。似たホタルブクロ(蛍袋)の花は薄紫色でガクの間に反り返った付属体(円内矢印)があるが、ヤマホタルブクロにはない。

ハルジオン/春紫苑 キク科

5月



①70cm・多年草
北米原産の外来種。蕾が垂れるのが特徴。茎は中空になっていて、茎葉は茎を抱く(円内)。遅れて咲くヒメジョオン(姫女苑)は茎を抱かず蕾も垂れない。

タムシバ/田虫葉 モクレン科

4月



★落葉高木
葉が出る前に花が咲く。花は10cmと大きく、6枚の白い花弁と3枚の白いガク片からなる。花のつけ根に葉はなく、似たコブシ(辛夷)は葉が1枚出る。

モミジイチゴ/紅葉苺 バラ科

木

4月



★落葉低木
葉がモミジ似で、花がイチゴに似る。花は下向きに連なって咲き、枝にトゲがある。似たヒメカジイチゴ(姫梶苺)は花が上向きに咲く。

ミヤマガズミ/深山莢蒨 ガズミ科

木

5月



★落葉低木
小さい花が密集する。葉先が急に尾状に尖っている。ガズミ(莢蒨)の高山種とされるが、積雪の多い八石山ではどちらも見られる。

カスミザクラ/霞桜 バラ科

木

4月



★落葉高木
ヤマザクラ<P.5>やソメイヨシノ(染井吉野)より遅れて咲き出す白花の桜。満開時には木全体がかすんだように見える。開花と同時に葉も出る。

アズキナシ/小豆梨 バラ科

木

5月



★落葉高木
花からのびる白い糸状のものは長いオシベで、20本ある。秋にできる実が小豆に似る。葉は波型がクッキリしていて幅が均等なのが特徴。

ウワミズザクラ/上溝桜 バラ科

木

5月



★落葉高木
サクラの花には見えないが、のびた花序に小さな花(花弁は5枚)をびっしり咲かせる。その様はコップを洗うブラシのよう。日当たりを好む。

アオダモ/青櫛 モクセイ科

木

5月



★落葉高木
木の質が堅くて粘りがあることから、野球のバット材として知られる。細かな花を房状につける。樹皮は雨が当たると青みがかって見える。

ケナシヤブデマリ/毛無藪手毬 レンブクソウ科

木

4月



★落葉低木
葉に毛のない日本海側に多い種。花はガクアジサイ(額紫陽花)に似る。花弁(正式には装飾花)は5枚あり、1枚が小さいので蝶(ちょう)に見える。

オオカメノキ/大亀木 レンブクソウ科

木

5月



★落葉低木
花はケナシヤブデマリに似るが、こちらは5枚の花弁(装飾花)は同じ大きさ。葉は広卵形または円形で、葉脈が目立つ。別名ムシカリ(虫刈)。